

AACA賞2023

第32回

1. AACA 賞について

2. 審査総評

3. 審査経緯

4. 受賞作品紹介

AACA 賞

芦原義信賞

優秀賞

奨励賞

特別賞

美術工芸賞

美術工芸賞奨励賞

5. 受賞作品紹介 [入選]

6. 応募作品一覧

AACA 賞について

AACA 賞の概念と選考

一般社団法人日本建築美術工芸協会は建築家、美術家、工芸家をはじめ関係する様々な分野の個人や団体が連携協力し、芸術性豊かな環境と美しい景観の創造を目的として、わが国の文化向上に寄与する事を願い設立された団体です。従って各賞の対象分野は都市デザイン、地域デザイン、ランドスケープデザイン、パブリックデザイン、建築、工芸、絵画、彫刻、環境美術、グラフィックデザイン、ディスプレイデザイン、インテリアデザイン等のほか、素材やエネルギーの領域に至るまで広範囲に亘ります。又、新しい芸術的環境を創造するだけでなく優れた歴史的景観を保存継承するための作品も対象になります。

・AACA 賞

当協会の設立理念と目的に叶い、建築・美術、工芸ランドスケープなど様々な分野が協力し、融合して創造された文化的環境と美しい芸術的景観を対象とする協会賞です。AACA 賞はこの様な優れた景観を実現させた個人、グループ、団体を毎年表彰する賞です。また、AACA 賞に次ぐ入選作品には優秀賞、特別賞、奨励賞が選抜され授与されます。

・芦原義信賞 (新人賞)

芦原義信賞は当協会の設立者で我が国の街並み景観形成や芸術的環境形成に多大な業績を残された芦原義信先生の業績を記念して創設された新人賞です。AACA 賞に応募された作品の中から、新人で、優れた文化的環境や芸術的景観を実現させた未来ある、個人、グループ、団体を選び毎年表彰する賞であり、新人に年齢制限はありません。

・美術工芸賞

応募作品の中より、特に美術・工芸の分野で功績のあった作品の作者を表彰する賞です。



AACA賞トロフィー

風を切って力強く、そして、美しく飛躍する「そりのあるかたち」をイメージした彫刻です。

澄川喜一 彫刻家・元東京藝術大学学長
文化勲章 (令和2年) 受賞
文化功労者・aaca名誉会員



芦原義信賞 (新人賞)トロフィー

スパイラルは位相空間のモデル。科学者、数学者、建築家、アーティストをはじめ、様々な領域で人を魅了し続けているスパイラル。私もその“不思議”に取り憑かれた一人です。「ミニマムな技法、材料でマキシマムな効果」をテーマに、三枚重ねのスパイラルは非対称、動的でありながら安定自立する構造になります。優れた建築をはぐくむ培養土、“コンポスト”は、クライアント、つぎに建築美術工芸関係のグループ、そして施工業者、これら三者の誠意あるコラボレーションです。支えあうベクトルの軌跡をこの賞牌に読みとっていただければ幸いです。
川上喜三郎 建築家・彫刻家・aaca会員

選考委員会

委員長：古谷誠章 (建築家)

副委員長：可児才介 (建築家)

委員：岡本賢 (建築家)

川上喜三郎 (建築家・彫刻家)

斎藤公男 (建築家)

近田玲子 (照明デザイナー)

東條隆郎 (建築家)

藤江和子 (インテリアプランナー)

堀越英嗣 (建築家)

宮城俊作 (ランドスケープアーキテクト)

米林雄一 (彫刻家)

後援団体

(一般社団法人)日本建築学会

(公益社団法人)日本建築家協会

(一般社団法人)日本美術家連盟

(公益社団法人)日本建築士会連合会

(一般社団法人)日本建築士事務所協会連合会

(一般社団法人)日本インテリアプランナー協会

(一般社団法人)日本建設業連合会

第32回 AACA賞

「写真家のスタジオ付き住宅」

作者：仲俊治 宇野悠里

晩秋の軽井沢に「写真家のスタジオ付き住宅」を訪ねた。

紅葉に染まる庭に、静かな佇まいで建っていた。設計家は「森の秩序に基づいてつくった動的な場」と、作品概要の冒頭に記している。敷地には存在感のある山桜が3本、ドッシリとあった。その樹木の隙間を縫い、Y字型のボリュームを持つ建物を配置し、三方からの壁面が支える構造となっていた。シンプルで明解な建築だ。また3次曲面屋根も有機的で、森の中にうまく溶け込んでいる。内部に入り、まず気付くのは自然との一体感だ。中央部の三角天井からトップライトの光が注ぐ。

曲面ガラスの開口部は、内と外の視角的、さらには心理的交歓が育まれる様に、小気味好い空間構成だ。曲面ガラスに添って続く卓上には、整頓された本やオブジェが並び、写真家の知的でセンシティブな人柄を感じた。

選びぬかれたオブジェ群もさりげなく位置が与えられ、写真家の脳内配置図とピタリ一致しているのだ。

私は彫刻制作を続ける中で出合った好きな言葉がある。

「彫刻は精神が物質に宿ることを可能にし、物質と空間と時間との結び付きを、科学的に証明するものだ。さらにそれを補足することができ、それも直接的な方法でだ。」

私は現地に立ち会い、スタジオとしても住宅としても魅力的で、住む人が楽しみながら大切に作り上げてきた空間と時間を感じた。

小舎な個人住宅だが、設計家の実力が存分に感じられ、他の多くの審査員の賛同を得、AACA賞に決定しました。 [選考委員：米林雄一]



Rの外壁に沿ったデスクと柱や間柱あわらしの背骨壁にはさまれたオフィス

写真撮影：鳥村銅一



スタジオの右手の壁は黒色顔料仕上げで、光の当たり方によって表情を変える

写真撮影：鳥村銅一



樹木の隙間に3方向に広がるヴォリュームをおき、梁の勾配変化による曲面屋根を架けた

写真撮影：鳥村銅一

これは、森の秩序に基づいてつくった動的な場である。写真家のスタジオ付き住宅では、仕事場としての緊張感を保つための建築的な工夫が求められた。樹木の隙間を建築化し、Y字型のボリュームを持つこの建築は、その3次曲面屋根とともに、動的な空間体験を与える。住むことと働くことをシームレスに繋げることで、森のなかを移動し続け、その過程で新鮮で発見的な日常をもたらすことを意図した。トップライトや曲面ガラスの開口部、中間領域として

の蚊帳テラス、スタジオの壁面を構成する黒色塗料など、生活を支えるディテールはシンプルであることを追求し、滑らかな体験に奉仕している。また寒冷地であることから、断熱・気密・床暖房のディテールにも気を配った。

[応募番号：47]
所在地：群馬県甘楽郡下仁田町西野牧
主要用途：住宅、写真スタジオ
敷地面積：1,388.74㎡
建築面積：155.92㎡
延床面積：155.92㎡

第32回 AACA賞 芦原義信賞

「山五十嵐こども園」

作者：東海林建 平野勇氣

敷地は、新潟県の日本海側に続く砂丘群がつくりだした緩やかな尾根に沿ってひろがる集落のはずれにある。この立地環境を最大限に活かすための建築家の創意が、優れた空間と環境に結実しているのであるが、このことは、三つの観点から評価できそうだ。

一つめは敷地の微地形に対するセンシティブなサイトプランと建築の平面・断面計画である。尾根に相当する部分の南側エッジのラインに沿って建築平面の東西軸が設定されていて、これにより、きわめて効率的な諸室の配置と主動線を実現すると同時に、屋外への視線を含む室内環境の多様性をもたらした。年齢別の保育室をつなぐL字型の回廊は緩やかに蛇行しつつ外部に開かれ、園庭をへだてて園児の送り迎えの様子を集落の日常風景の中に折り込んでいる。

二つめが、寸法の大きな材運び込むことができない狭隘な道路条件の立地を逆手にとった構法である。現場で小さな材を組み合わせた木製トラス

をつくり、それらを組み合わせる手法が採用されている。頂点が上向きの山トラスと下向きの谷トラス、これら二種類のトラスの交点を間仕切り壁の上にならずして載せることで、各室ごとに表情の異なる空間をつくりだすとともに、壁の上部に抜けを確保し、全体が緩やかにつながる空間のおおらかさが感じさせる。

そして三つめが、敷地の面積的余裕と周辺の多様な環境を保育に活かすための「境界の弱さ」である。園児の安全・安心をことさら強調するあまり、外に対して閉鎖的であることがデフォルトになりつつある保育施設にあって、このコンセプトは新鮮であった。集落に開くことによって、集落全体で子ども達の居場所を見守る、かつてはあたりまえであったコミュニティのあり方を取り戻そうとする姿勢が、施主、保護者、建築家に共有されたことの顕れであろう。「園を村のように作り、村を園のように育てる」という幸せなストーリーが紡がれる場所である。

[選考委員：宮城俊作]



5歳児室を見る。トラス交点と間仕切り壁の位置がずれ、隣室同士の空気や気配がつながる 写真撮影：藤井浩司 TOREAL



ムッレの森(敷地南側)より、村の特徴が反映された園舎外観を見る

写真撮影：藤井浩司 TOREAL



園庭(敷地北側)より、園舎外観を見る。家のような灯り環境を計画した

写真撮影：藤井浩司 TOREAL

「しぜんに、しぜん」とを理念とするこども園。村の小道をくねくねと抜けた先の自然豊かな砂丘の頂に位置し、歩を進める毎にバラバラとシーンやニッチを展開し子供達に多様な拠所を提供する。「この園、誰のため、何のため？」をテーマとして、保育の研究者保育士父母地域住民を巻き込みワークショップを重ね、子供達や村のための園のあり方について対話を積み上げ、「村のように園をつくり、園のように村をそだてる」をビジョンとして定めた。

大きな材が運べない敷地条件のもと、現場で小さな材を組み合わせた木製トラスを作り、大きな保育空間を作った。トラスの交点を間仕切り壁の上からずらして載せることで、各室ごとに表情の異なる環境を作り出すと同時に、間仕切り壁の上部が抜け、それぞれの環境を緩やかにつなげている。保育室、更には園舎、園庭を越えて周辺地域までを一つの連続体とした「大きな保育環境」を構築した。

[応募番号：31]
所在地：新潟県新潟市西区五十嵐三の町西
主要用途：幼保連携型認定こども園
敷地面積：6,995.16㎡
建築面積：1,586.56㎡
延床面積：1,101.58㎡

「Entô」

作者：建築・監理：MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO / 原田真宏 原田麻魚 野村和良 構造：KMC / 蒲池健
設備：テーテンス事務所 / 村瀬豊 設備アドバイザー：森田和義 サイン・展示デザイン・ネーミング：日本デザインセンター 三澤デザイン研究室

日本海に浮かぶ隠岐島からフェリーで1時間、Entoのある西島は、島前と呼ばれる人口1万人を割る離島で、海士町の地方活性化政策は以前から知られている。
羽田空港を出てから6時間、Entoはフェリーが港に入る直前に島陰から我々を迎えるように忽然と目の前に現れた。フェリーからの外観はグリッド状の木構造のみで驚くほど透明度が高く、「島全体をホテル」と見なすとする町の観光計画を明快に示しているようにシンボリックな建ち姿であった。
設計者が大変に得意とする CLT 版の構造が、離島の建築に実にうまくいかされている。全ての仕口・継手をはじめサッシュや設備スリットまでも精密に本土の工場でプレカット加工されて運ばれ、島ではプラモデルを組み立てるように現場施工、短時間で完成したという。CLT版加工工場・海士町・意匠構造設計事務所の間に、人と物の移動のない「リモート構法」で、コロナ禍においても「離島」という地理的制約を受けることなく施工された。この構法を最大限に活かした建築設計の見事な勝利と言える。

シンプルな構法で生まれた客室からの眺望、穏やかな海に向けて全面ガラスの開放感が抜群だ。2015年にユネスコ世界ジオパークに登録されたこの地域の自然に溶け入るように、建築の内外を忘れるような環境との一体感が、身体に五感に染み入ってくるように透明度が確保されているのが素晴らしく、清々しい宿泊の空間と時間が体感できる。
このEnto施設の一部に、ジオパークミュージアムが設けられているが、文化活動は、実にスマートな運営がなされていて知識欲を促してくれる。建築と行政が島の人々とともに渾然一体となって「まるごと島ホテル」として島の活性をもたらす素晴らしい取り組みが随所に感じられました。建築が単なる建築物ではなく、その土地とのさまざまなグローバルな繋がりや連携、展開を可能とし絡み合って実現していくのは、これからの公共建築の役割やあり方として重要なことと思います。遠島での新しい建築の有り様を、合理的に美しく具現化したところを高く評価したいと思います。 [選考委員：藤江和子]



「島全体ホテル」のコンセプトのもと島民が運営全般に関与する地方活性化プロジェクト 写真撮影：鈴木研一



「間口：広く / 奥行：浅く」計画された客室は、ジオパークに抱かれたような体験を得る 写真撮影：鈴木研一



既存棟と新築棟をつなぐ「ホール/テラス」。庇付きのイベントスペースでもある 写真撮影：鈴木研一

“離島”というホテル
人口2000人の隠岐島・海士町は、2015年にユネスコ世界ジオパークに認定された。世界中からの来島者を受け入れるため、「島全体ホテル」をコンセプトとし、この「Entô」を計画した。皆無とっていい島内建設産業力と、地球へのリスペクトから、本土でほぼ全ての工程が済み、環境問題にも応える全面CLTパネル構法を採用している。部材は3Dモデル通りに精密にプレカットされるが、その加工データはネット

を介してやり取りされるため、人と物の移動は最小化され、離島という地理条件によるデメリットを大幅に解消している。また、自主開発したCLT製モノコック構造の利点を活かして、客室では広い間口を全てガラス開口とし、ジオパークの自然景観を最大限味わえるように工夫している。ホテルのコンセプトやアメニティ、サービスに至るまで、総合的に監修し、純度が高く特別な「離島ならではの世界観」を実現した。

[応募番号：25]
所在地：島根県隠岐郡海士町福井
主要用途：宿泊施設
敷地面積：5,666.21㎡
建築面積：781.32㎡
延床面積：1,639.67㎡

第32回AACA賞 優秀賞

「那覇文化芸術劇場 なは一と」

作者：香山・久米・根路銘設計共同体

長谷川祥久 兒玉謙一郎 根路銘剛次 望月麻衣 角沢聡子 岡本賢吾 香山壽夫

那覇市内中心部に近い久茂地小学校跡地に計画された大小二つのホールと練習室などからなる複合文化施設。表通りから一歩引き込まれた立地ですが、遠くから垣間見えるだけで、その外観の存在感に圧倒されます。何よりも執念にも似た情熱を感じさせるのが、その外観を覆う最も高貴とされる首里花倉織をモチーフとしたスクリーンで、HPC（超薄肉コンクリート板）を二度に分けて打設して製造されています。とかく閉鎖的な量塊になりがちなホール建築にあって、透過性を持ち、また沖縄の光の中で細かい陰影を生み出す独特な外皮となっています。内外に用いられたすべて既成のパターンのものでそうですが、沖縄独特の花ブロックの壁面とあわせて、立地する沖縄の風土を感じさせる造形となっていました。プロポーザルの段階から提案の中心となっていた「ウナー」と呼ばれるアトリウム的な中庭空間は、首里城の「御庭」に倣ったもので、人々が集まり、行き交う場としてとても活気があり親しみの持てるものとなっています。このウナーに面して置かれたリハーサル室でもある多目的なホールスペースは、

表通り側にも開放することができ、この中庭に開放性を与えています。また、ここから見上げる上階の練習室は、二重ガラスを巧みにデザインして、吹き抜け側を切り下げて練習室内部のアクティビティを伺わせるものとなっており、練習室内部からもウナーを開放的に見下ろせるものとなっていてとても好感が持てました。

大ホール内部は明るい沖縄の海中を思わせる色彩と、バルコニー部の手すりの割肌タイルが醸し出す珊瑚礁のような質感が効果的で、南国を感じさせます。これに対して小ホールは高貴な色のイメージが首里城を連想させ、それぞれに固有の雰囲気を楽しませてくれます。

内外に造られたさまざまな広場の空間も、様々な出し物やイベントに活用されているようで、ホールの賑わいが周辺の街角にも溢れ出す様子が想像できます。全館があたかも大きな沖縄の「アシャギ」を思わせる、人々を迎え入れる懐の豊かな空間と見受けられます。 [選考委員：古谷誠章]



隣接した街路と繋がり、柔らかく光が差し込む、外部空間のような屋内広場「ウナー」

写真撮影：小川重雄



施設を柔らかく包み込む首里織皮膜が、周辺環境と調和し地域のランドマークとなる

写真撮影：小川重雄



首里織皮膜が沖縄の強い光を和らげ、その織物の影が建物内部にも豊かな表情をつくる

写真撮影：小川重雄

「なは一と」は那覇市のみならず、沖縄を牽引する舞台芸術創造拠点であると共に、市民の日常的な集いや交流の場を生み出すことを目的とした。外観は、建物全体を織物のような皮膜で包むことで、住居と商業施設が混在する中心市街地の中で巨大な劇場施設を周囲のスケールと調和させた上で、新たな那覇の顔となることを目指した。また施設は全方向に開き地域との繋がりを持たせると共に、沖縄・那覇地域独自の要素を取り入れた空間としている。広場としての「ウ

ナー（御庭）」を中心に、「スージグワー（路地）」のような通り抜け通路を設けて、賑わいと回遊性を高めた。ウナーは3層吹抜けで、練習室や劇場のホワイエが立体的に表れ、活動の賑わいに包まれる。外観の皮膜は「首里織（花倉織）」の構成を再現することで、日差しや視線を和らげ、この場所ならではの景観をつくると共に、「アマハジ（雨端）」としての軒下空間を生み出し、人々を優しく迎え入れる。

[応募番号：5]
所在地：沖縄県那覇市久茂地
主要用途：劇場
敷地面積：9,736.54㎡
建築面積：5,994.22㎡
延床面積：14,576.26㎡

第32回 AACA賞 優秀賞

「yodge」

作者：照内創（(株)SO&CO.） 土橋悟（(株)都市環境研究所）

郡山から車で南に50分、福島県中部の玉川村からさらに6km離れた山間に自然豊かな四辻地区がある。2006年廃校になった分校校舎を用途変更して、修/改築による観光/宿泊/レストラン/屋外体験施設がこのプロジェクトである。作者は東京に事務所を構えながら4年間、役場/村人たちとの交流を重ね、親しみやすい日常施設、時に特別な舞台を用意した。普通教室/職員室/資料室などを宿泊5室に、音楽/体育室をカフェレストランに、2011年震災で解体した普通教室を取り除いて屋根付き屋外テラスに。このテラスは大型引き戸で屋内施設としても利用、大型キッチンが併設されて食のイベントが開かれる。

「yodge」という聞き慣れないタイトルの由来は？「your lodging」/「あなたの泊まる宿」が短くなって「yodge」になったというのが私の解釈。「四

辻地区」の村人たちはこのレストラン/共同施設は「四辻の離れ」で、「yotsuji」を短く「yodge」と呼んでいると聞いた。施設の案内は日本語と英語のバイリンガルが徹底している。村役場はすでに欧米、東アジアからの旅行者の案内を前提にしているからだ。

懐かしい思い出豊かな木造平屋/切り妻校舎の妻側がアプローチに選ばれ、壁を取り外した大ガラス面からは教室の天井材を取り外した屋根組みが露われ、この施設の爽やかさ、透明感を演出。教室の間仕切を移動して片廊下を2倍半に広げ「四辻ギャラリー」と命名。一方 長手の正面校庭を優しい堤/土手が弧を描いて囲み、堤の上にはテーブル/ベンチとして可能な平板の木が巡らされ、多様な活用が期待できるランドスケープである。

[選考委員：川上喜三郎]



屋根下テラス：増築部は屋内外一体で利用可能な大空間。大型引戸により車両通行可能

写真撮影：若林勇人



屋根上テラス：校庭からの既存の外観を残すため、棟の高さを超えない高さに設定した

写真撮影：若林勇人



四辻ギャラリー：旧教室の間仕切りを移設し、WS等でも利用可能な幅広い共有空間

写真撮影：若林勇人

風景と地域の継承

福島県玉川村、その中心部から最も離れた自然豊かな四辻地区にある。2006年に閉校となった旧四辻分校は背後に斜面が迫っており、単純な施設保存を村は考えていたが、我々が検討に加わり、村全体の活性化の構想・計画づくりを行い、地域活性化の拠点となるべく、複数の安全対策によって用途変更を可能とした。携わった4年間で多くの卒業生や地域の方と話す機会を持ち、そこでの意見を基に、壁・床

板等は丁寧に剥がして保管し、耐震補強・断熱工事後に再利用することで、居住性・機能性を向上しつつ、人々の記憶に強く残る校庭からの風景を継承している。東日本大震災の影響で減築された部分まで増築し、往時の外観を取り戻すとともに、屋根上テラスの塔屋は、棟を越えない高さに抑えた。観光客だけでなく、地域の方々が今まで通り気兼ねなく立ち寄れる場であり続けること、いつも人々が居る場であることが、建物を生かし続けると考えた。

[応募番号：4]

所在地：福島県玉川村四辻新田字村中
主要用途：宿泊施設、飲食施設
敷地面積：4,232.20㎡
建築面積：509.01㎡
延床面積：502.18㎡

「大阪中之島美術館」

作者：遠藤克彦（株式会社 遠藤克彦建築研究所）

この建物を最も印象付ける特徴は63m角（正方形平面）×26mの黒いボリュームである。敷地は大阪中之島、堂島川と土佐堀川に挟まれた一角にあり、周りには国立国際美術館、大阪市立科学館など公共の施設が隣接している。北側の堂島川から見ると、周囲の様々な複雑な表情を持つ高層ビル群の中に、黒いボリュームが静かにかつ「凜」として、ひときわその存在を際立たせている。大変印象的な光景である。設計者はこの黒い外観の「黒」を感じさせるため、PC版に玄昌石の砕石と砕砂、黒色顔料を混ぜたコンクリートをウォータージェットで洗い出すことにより、表面の微細な陰を創り出し、さらに表面をコーティングすることにより、深い味わいの「黒」を実現している。

敷地の高低差を利用して2階にエントランスを設けている。それに至るランドスケープは開放的であり、適量の緑とパブリックなアートが配され、美術館に入るエントランスまでの道程が楽しい。入り口を通過して、パッサージュに入ると大きな吹き抜けの空間があり、その一部は最上階の5階まで連続しそれぞれの展示階のパッサージュと繋がっ

ている。この吹き抜け空間には上下階をつなぐ、「上り」「下り」の長いエスカレータが設置され、来場者の「動き」が見えるとともに、この吹き抜けを介して上下階の人々の「動き」や空間の繋がりを感ずることができ、楽しい空間でもあり安心感も持てる。内部の仕上げはブラチナシルバー塗装のスチールルーバーで精密に仕上げられ、展示室に至るまでの心の準備空間とでもいえるシャープで禁欲的な設えである。4階、5階のパッサージュはそれぞれ東西方向、南北方向に開かれ、突き当り全面からの自然光と室内の照明により落ち着いた心地よい空間となっている。このように美術館に至るまでの道程や展示室に至るまでの道程、滞在空間など、ここを訪れる人々にとり十分に心地よさを感じさせる設えがこの建物の価値を高めている。また、この「黒い」美術館全体が中之島の都市景観の中にアートを感じさせ「潤い」をもたらしているものになっていると評価するとともに、時間の経過とともに変わりゆく都市景観の中でさらに輝きを増すことを楽しみにしている。 [選考委員：東條隆郎]



4階よりパッサージュを見下ろす。1-5階まで連続した吹き抜け空間となっている。

写真撮影：上田 宏



北東交差点より、つづら折りのアプローチにより2階へとつながる。

写真撮影：上田 宏



4階パッサージュには、ジャイアント・トラヤン(ヤノベケンジ)を設置。

写真撮影：上田 宏

大阪中之島美術館は、堂島川、土佐堀川という二つの河川に挟まれた大阪中之島に位置しています。佐伯祐三や吉原治良に代表される大阪が育んだ作家の作品を中心とした、第一級のコレクションを所蔵する芸術拠点として2022年2月に開館しました。設計コンセプトは、「さまざまな人と活動が交錯する都市のような美術館」です。誰もが気軽に訪れ、学び、くつろぎ、楽しみ、触発され、そして発信する、いわば「都市空間」のような美術館として設計しています。

建物には「正面」をつくらず、全方向からの人の流れを複数のエントランスで面的に受け入れる計画とし、1・2階は都市に開いて、美術館を訪れる人以外にも普段から利用できるような公共性を提供しています。印象的な黒いヴォリュームは建物内に立体的に計画された「パッサージュ」によってくり抜かれ、展示室はもちろんのこと、その大きな吹き抜け空間も市民が美術と触れ合うためのデザインとしています。

[応募番号：50]
所在地：大阪府大阪市北区中之島
主要用途：美術館
敷地面積：12,870.54㎡
建築面積：6,680.56㎡
延床面積：20,012.43㎡

第32回AACAA賞 奨励賞

「ミュージアムタワー京橋」

作者：中本太郎 矢野雅規 小林哲也 李宇宙

建て替え前の建築は1951年に創業者石橋正二郎が当時最先端のニューヨークのアールデコ建築を彷彿とさせる本社ビルで、ブリヂストン美術館を併設させることで長年愛されてきている芸術文化の拠点を東京の玄関口である八重洲に作り出していた。新しい計画は旧建築からの理念である文化都市の建築の視点を大切にすることを基本としている。隣に新築される新TODAビルと一体となる開かれた美術館によるアートスクエアという空間によって都市の文化的使い手の視点を大切に芸術文化街区「京橋彩区」を作り出す試みはこれからの都市空間を豊かな場所にする貴重な試みで、特区に指定されたことは特筆に値する。

建築は都市型高層ビルの三層構成即ち、中景となる胴体部分を動く場所である賃貸オフィスに、アイレベルからの近景で基壇となる部分の低層部に街に開かれた美術館を配置し、遠景となる頭部は中央通りと八重洲道路との交差点を示す特徴的なスカイラインを持つ魅力的な“建築”となっている。その意味では、低層部の美術館のアクティビティが東京の玄関口である交差点にもう少し現れてほしかった。

オフィス部分においては環境配慮のためのコンピューテーショナルデザインで、「離散型ルーバー」と水平バルコニーで、刻々と変化する太陽光調整、各階個別の自然換気、配管、清掃等のメンテナンスを可能にしている。「離散型ルーバー」は特別に計算された美しいアルミの押し出し金物で、楕円の外形線の中で場所ごとに有効な形態をその多様な組み合わせによって生み出している。設計者の優れた力量と追求によって生まれた美しく有用性を持った外皮であり、時時刻刻変化する太陽の光を繊細に映し出し、都市景観に生き生きとした変化をもたらしている。縦ルーバーが室内からの景色に影響があることへの意見もあったが、実際の空間ではレースのカーテンのように乱雑な周囲の都市景観を和らげ、集中できる空間となっていると感じた。

クライアントの芸術文化に対する理解と設計者の先端的課題への挑戦の姿勢が融合した美しく優れた建築として AACAA 賞奨励賞にふさわしい作品である。
[選考委員：堀越英嗣]



季節や時間に応じて移ろう、離散型ルーバーによる“光のカーテン”としてのファサード 写真撮影：野田東徳 / 雁光舎



開かれた美術館を象徴するアーティゾン美術館の展示ロビー

写真撮影：野田東徳 / 雁光舎



自然とオフィスが地上120mで融合したスキップフロア型屋上庭園

写真撮影：野田東徳 / 雁光舎

開放系の超高層—美と技がつなげる都市・環境・アート
東京駅前、京橋に建つ、ハイグレード賃貸オフィスと美術館からなる超高層建築である。1951年当時の最先端建築であった旧ブリヂストンビルを同地に建てた創業者の哲学を継承し、社会環境と技術の先端をデザインで体現した新たな価値創造が求められた。「まちに開かれた芸術・文化拠点の形成」を柱とした特区を軸とし、地球環境や地域への影響の大きい大型

建築の使命を最大限に果たすべく、最先端技術による環境負荷の削減と同時に、都市空間や人の活動を内に取り込み、水平・垂直に広がる開放系の超高層を目指した。ハードとしては、コンピューテーショナルデザインによる離散型ルーバーをはじめ、無数の本邦初となる美と技の徹底した統合を試みた。アートを軸としたエリアマネジメント活動等の建築の枠を超えたソフトとの融合で、街とアートがつながり、働くことを刺激する、芸術文化を楽しむ体験となる。

[応募番号：28]

所在地：東京都中央区京橋

主要用途：事務所、美術館

敷地面積：2,813.74㎡

建築面積：2,212.83㎡

延床面積：41,829.51㎡

「台地のFORTE」

作者：佐藤達保

この作品は建築家の自邸である。まず、注目したのは、高低差10mほどの崖地の上に擁壁をさらに高くしたような外装を施した1階部分の上に、木造の透明感のある平屋に見える建物があることである。敷地は大阪市の天王寺から南へ2kmほどのところに位置する。上町台地と言われる大阪の歴史的な骨格をなす台地の西端にあり、台地の北の先端部には大阪城がある。設計者は自邸を計画するにあたり、丹念に土地を探し、この敷地を探しあてたとの事である。

1階のガレージ側から内部に入ると三和土仕上げの通路状の「通り土間」があり、突き当りの開口部からと二階に通じる軽やかな階段から自然光が差し込み、柔らかな明るさの心地良い空間である。土間に沿って、右側は構造材LVL(38×280)をそのまま表しで利用した収納棚、左側にプライベートな生活空間が納められている。主寝室と奥にある浴室には小

ぶりなライトコート「箱庭」からのみ柔らかな光が注いでいる。1階は開口部も少なく抑制された空間の中ありながら「自然の光」や「木」、「通り土間」など巧みな自然の素材の活用が温かみのある空間を創り出している。

「通り土間」やから階段を上がると、三方が大きく開かれた、とても明るい開放的な居間空間が突然現れる。正面は、大阪の西一帯を見渡せ、まさに天守閣にいるようである。天井まである大きな引き戸を全開放すると、テラスと一体となった大きな半屋外空間となり、外の広がりや内部まで取り込んだこの空間は、建物の規模を感じさせない豊かな気持ちにさせる。

特異な敷地の持つ可能性を最大限引き出し、さらに、木質や自然の材料の吟味や、その材料の使い方、緻密で繊細なディテールがこの空間を心地よいものとしている。ダイナミックでありながらとても心地よい空間の「住まい」が実現している。 [選考委員：東條隆郎]



台地の「てっぺん」。上町台地から見渡す花鳥風月の世界。大型引戸を全開にして、テラスと連続した半屋外的な空間となる。

写真撮影：平井広行



急峻な敷地を補強して上町台地の形をそのまま持ち上げたボリューム。敷地の短所を長所に反転し、都市にありながら自然の変化を感じる住まい

写真撮影：平井広行



台地の「地中」。上町台地の中の陰翳礼讃の世界。私的な空間を配置し、抑制した開口や箱庭から光と風を取り込む。

写真撮影：平井広行

夫婦と子ひとりの小さな住宅である。敷地は大阪の地勢的骨格、上町台地のまさにエッジ上にある。高低差10mもの崖、風致地区による建築制限が敬遠され、長らく都会の空白であった。既存擁壁を壁面後退として再評価し、敷地の短所を長所に反転することで、実質建蔽率が高く眺望のよい魅力的な場所へと化けさせた。敷地に力強く寄り添ったこの建築を「台地のFORTE」と名付けた。FORTEとは、「強調、長所、城塞」という意味である。

台地断面を延長するようにボリュームを持ち上げ、1階を「台地の地中」2階をその「てっぺん」に見立てた。前者は陰翳礼讃の世界として生活機能を、後者は花鳥風月の世界として自然光や卓越風を心地よく導入した。両世界観のはざまで、家族の気配や朝夕の変化、日常に見え隠れする自然を感じさせる生き生きとした住処を目指した。仕上げは適所に手触りのある材料や、大工の手刻みによる仕事にこだわり、時とともに味わいを増すように心掛けた。

[応募番号：48]
所在地：大阪府大阪市阿倍野区橋本町
主要用途：住宅
敷地面積：185.69㎡
建築面積：67.12㎡
延床面積：106.30㎡

「Port Plus 大林組横浜研修所」

作者：株式会社大林組設計本部

伊藤泰 堀池隆弥 伊藤翔 高山峻 太田真理 辻靖彦 岩井洋 西崎真由美

日本国内初の純木構造の高層建築である。それを実現する為に様々な初めてのディテール開発や工法開発が必要となり、その為の多大なエネルギーが消費された事を感じさせる。耐火木構造体は芯材となる柱・梁材を耐火被覆で包み、更に表面材として燃え代材で覆う仕様としている。柱梁材を一体とした十字型のユニットをドリフトピンという棒鋼で接合して組み上げていく方式で、ジョイント金物等の使用を極力避ける工法が開発された。この剛接仕口の十字架型ユニットは工場製作により、生産性の向上に寄与している。柱・梁・床の全てを木造耐火被覆として様々な検証及び実証試験により高層純木造耐火建築物を実現した。

建築用途は自社の研修施設である事から自由な発想の内部空間を構想

し、各階が異なったプランで様々な研修スペース、コミュニケーションスペース、リラクゼーションスペースを構成している。

吹き抜け空間や植栽と一体となった外部空間の取り組みや外気導入のダブルスキンの採用、自然素材の仕上げ材等環境配慮を細やかに計画し、あらゆるところに木の暖かみを充分感じる事が出来る。

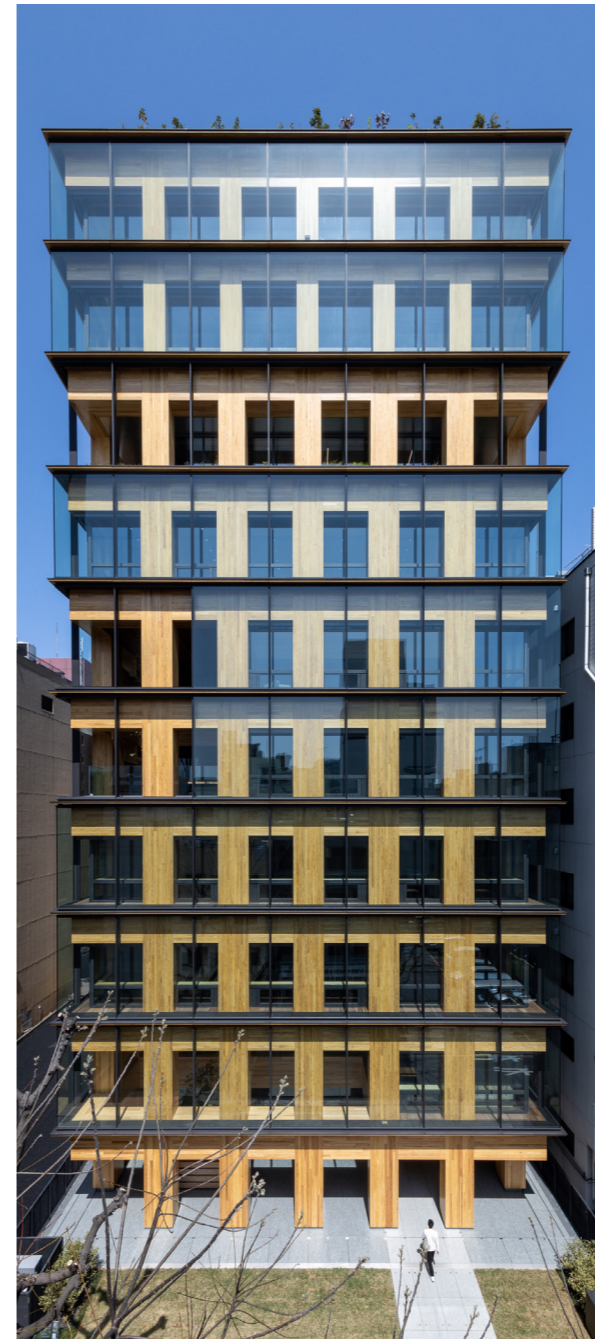
外装の木架構は全面ダブルスキンのガラスカーテンウォールで覆われて、架構表面の木の風化を防いでいると共に現代的な表現に成功している。様々な環境問題から木造が見直され、本格的な大架構建築や高層建築の時代が始まって、この建築はその嚆矢となる作品として特別賞に値する。

【選考委員：岡本 賢】



誰もが木造建築を体感できるように都市と街に開かれたピロティ

写真撮影：(株)エスエス 走出 直道



十字型ユニットで構築された木構造体を
可視化させた都市に建つ高層木造建築

写真撮影：(株)エスエス 走出 直道



外部環境を取り込む吹抜テラス、
そこから連続する居心地のよいワークスペース

写真撮影：(株)エスエス 走出 直道

Port Plus 大林組横浜研修所は、日本初の高層純木造耐火建築物であり、木材利用が強く求められる今日の社会において建築の可能性を示した計画である。用途は研修所であり、木造木質空間を活かした上でIoT諸技術と融合したバイオフィリックデザインを徹底し、ユーザーの健康増進と、人・物・環境への様々な気づきを提供する「これからの知を育む場」をデザインした。研修スペースは内部・外部で多様な吹抜で空間を繋げることで他者や環境への気づきを促す。

また、木造の柱 / 梁は架構剛性を確保する「剛接合ロユニット」を開発し、工場でユニット化するため生産性の向上に寄与する。地上部の柱・梁、床、壁、屋根のすべての木造部分の耐火仕様は、部材ごとに認定仕様が定められ、部材接合部の耐火仕様の勝ち負け、変形に追随するディテール、熱橋にならない部材取り付け方法の検証及び実証試験を実施し、高層純木造耐火建築物を実現した。

【応募番号：19】
所在地：神奈川県横浜市中区弁天通り
主要用途：研修所
敷地面積：563.28㎡
建築面積：397.58㎡
延床面積：3,502.87㎡

第32回 AACA賞 美術工芸賞

「歳吉屋—BYAKU Narai—」

作者：株式会社 竹中工務店 美島康人 長谷川裕馬

木曾街道沿いの奈良井宿は、江戸期の宿場町の建物が約1kmにわたって連なる重要伝統的建造物群保存地区に登録された美しい街並みが残る。築200年のかつての造り酒屋の、ミセ、オク、酒蔵、味噌蔵、物置、全ての建物の調査をもとに、耐震性能・遮音性能、温熱環境、防災機能を向上させて、8つの客室、レストラン、浴場、酒造りエリアを併設した施設に再生させた。

特筆すべきは、残すべきものと新しく挿入するものを選択眼である。白い土蔵の塗壁と礎石をそのまま庭の路地の一部として取り込む、時代の痕跡を残す古い壁をそのままインテリアに使ったり、時には居間の床レベルを下げることによって外に広がる山の景色が見えるように設えた。一方で、ベッドやソファなどの新しい家具の形状や色、質感に細心の注意を払って古民

家再生のプロジェクトが陥りがちな「ジャポニカ・テイスト」から免れることが出来た。加えて、オーナーの家に伝わる掛け軸や屏風などを骨董品として飾るのではなくインテリアの一部として使ったり、昔ながらの小さな神棚を現代に生かしたり、地場の木材を使った風呂場の小さな椅子、有明行燈の修復など、この土地ならではの歴史的背景のある工芸を各所に使って新鮮な和の空間を創り上げたことが、美術工芸賞として評価された。

今後は、手すりのない急な階段や小さな飛び石が連なる庭の改修など、高齢者が過ごしやすい環境を整える工夫も必要となろう。また、敷地の奥に作られた木曾漆の立派なカウンター・テーブルを備えたバーに街道から気兼ねなく入れるようにすれば、地域の方々や他の旅館の宿泊客の唯一無二の高歓の場となるのは間違いない。 [選考委員：近田玲子]



客室(旧カッテバ)：既存天井を撤去し、梁や漆喰壁を現しにて当時の空間を再現した

写真撮影：ONESTORY



外観：重伝建の外観は保存し、間接照明のみを追加し夜の表構えの表情を柔らかく更新した

写真撮影：ロココプロデュース 林広明



レストラン(旧仕込蔵)：2層吹抜にした空間の奥に再興した酒造りの気配を感じる

写真撮影：TOREAL 藤井浩司

木曾路・奈良井宿にある築200年のかつての造り酒屋「杉の森酒造」を、宿・レストラン・浴場・酒造りエリアを併設する小規模複合施設へ再生した。奈良井宿は重要伝統的建造物群保存地区に登録されており、約1kmにわたって美しいまち並みが残る。発見された明治時代の図面や現地に残る痕跡をもとに、商家の特徴的な間取りと照らし合わせ、ハレノケ、ミセ/オクなどの文脈を読み解き客室八室全てに異なるテーマを設定した。

外観や構造物の保存規制の中で耐震性能や温熱環境、防災、遮音機能の向上を図ると共に、古民家の持つ歴史的背景や空間、架構、設えなどと丁寧に対話を繰り返し、残すべきものと新しく挿入するものを精製デザインへと昇華した。また、地場材や漆などの工芸を各所に使用し、宿泊や飲食を通して深く地域や歴史に触れ発信する場として新鮮な驚きや発見がある空間を創出することを大切にしたい。

[応募番号：13]
所在地：長野県塩尻市奈良井
主要用途：旅館、飲食店舗、公衆浴場、工場
敷地面積：1,816.37㎡
建築面積：1,018.37㎡
延床面積：1,182.71㎡

第32回 AACA賞 美術工芸賞奨励賞

「湯野浜・亀や あかがね」

作者：加藤詞史（加藤建築設計事務所） 岩田英里（岩田組） 阿部公和（亀や）

日本海に直接面して建つ創業 200 年の老舗旅館「亀や」の客室である。鶴岡市の郊外、湯野浜温泉郷にある。わずか40㎡のインテリアデザインという今までにないタイプの応募作品である。

地元固有の銅板技術と「浜の湯壺」の伝統を念頭において、日本海の厳しさと対峙してきた豊かな風土と歴史を、体験できる空間を創ろうとしたものだ。作者は銅板の赤銅から緑青への変化を、体験と時間がデザインされるものと表現しているが、気候の厳しい外部と違って室内ではどうなるのかは実はよくわからない。ただ素材にこだわって銅板の「屋根」を想起しながら天井に貼り、温泉の浴槽を前面においたという独創には注目したい。

今回最も評価されるのは、旅館亀やの、アートや建築に対する深い造詣と

作者や作品に対する大きな思いである。客室を改修するにあたって亀やは「客室をアート」に見立てたギャラリース・プロジェクトを立ち上げた。この「あかがね」をふくめて数人の建築家を招いて一部屋ずつ独自の改修を行うことにしたのだ。またこれらの客室の前にはそれぞれのテーマを展示するギャラリーが設けられていて、部屋に入る前にテーマを予感させてくれる。

この取り組みは長年にわたって続いている。亀や社長のデザインやアートへの深い理解、客室運営の新たな経営方式の工夫、地域への思いなどその姿勢に触れるにつけ、このアートプロジェクトの今後の大きな可能性を強く感じる。銅板のインテリアには若干の物足りなさはあるものの、期待を込めて美術工芸賞奨励賞を送ることとなった。 [選考委員：可児才介]



気流をシミュレーションし湿度の高いバスまわりと適度に乾燥した温熱環境の混在を実現

写真撮影：加藤 詞史



壁・天井が一体となった銅板菱葺きが日本海の景色を細かく分節化し、室内に映し出す

写真撮影：加藤 詞史



落陽とともにゆっくりと流れる時間に年月を重ね、変色する銅板に手仕事を感じる

写真撮影：加藤 詞史

山形県湯野浜温泉「亀や」の客室改修。「客室をアート」に見立てた「ギャラリース」プロジェクトとして改修された一室が「あかがね」である。

日本海の厳しい環境に対峙してきた風土と歴史を地域固有の「銅板」技術と江戸時代の湯野浜温泉のルーツである「浜の湯壺」を現代に翻案し、宿泊一場の体験のアートとして日常と並走させるそんな思いが込められている。

善寶寺をはじめ、雪深く風雨に耐える出羽三山や庄

内の社寺は、美しい銅板屋根が特徴。時間とともに変色する銅板を時間素材の題材とした。銅板曲面で一体となった壁・天井が、湯野浜の風景を映しながら変色し経年変化を重ねていく時のデザイン。柔らかな銅に包まれるような空間の中に、藝が傷を癒やしたという浜の湯壺を一室空間におおらかに設置。湯気・湿度の高いバスタブゾーンと適度に乾燥した快適さが求められる寝室ゾーンを気流で分節し、異なる温熱環境を併存させた。

[応募番号：46]

所在地：山形県鶴岡市湯野浜

主要用途：旅館

敷地面積：4,239.64㎡

客室面積：40.23㎡

延床面積：10,124.68㎡

第32回AACAA賞 入選

「豊田の立体最小限住宅」

作者:川島範久 國友拓郎
所在地:愛知県豊田市
応募番号:11



写真撮影: Jumpei Suzuki

「神戸ポートミュージアム」

作者:大成建設(株)一級建築士事務所
高島謙一 土井健史 原田健介
所在地:兵庫県神戸市中央区新港町
応募番号:53



写真撮影: 田中克昌

応募作品一覧

応募番号:1



「TOKYO TORCH 常盤橋タワー」
作者:高野大樹 矢野晃一郎 中村教祐
所在地:東京都千代田区大手町

応募番号:2



「港南公会堂及び港南土木事務所」
作者:新居千秋
所在地:神奈川県横浜市港南区港南中央通

応募番号:3



「アパートメントS」
作者:塚越智之 宮下淳平
所在地:東京都世田谷区新町

応募番号:6



「GREEN SPRINGS」
作者:(株)スタジオタクシミズ (株)ランドスケープ・プラス (株)山下設計 (株)大林組
所在地:東京都立川市緑町

応募番号:7



「森と人の輪 立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ」
作者:曾根拓也(山下設計) 坂本達典(山下設計) 前原竹二(山下設計) 内村梓(山下設計)
所在地:熊本県熊本市北区乗越ヶ丘

応募番号:8



「名古屋機材センター」
作者:石黒紘介
所在地:愛知県江南市和田町中島

応募番号:9



「HOTEL THE MITSUI KYOTO」
作者:吉田進一 末森憲義
所在地:京都府京都市中央区油小路通二条下る二条油小路町

応募番号:10



「三宅町交流まちづくりセンター-MiiMo」
作者:ジオ-グラフィック・デザイン・ラボ 前田茂樹 中野照正
所在地:奈良県磯城郡大字伴堂

応募番号:12



「GOOD CYCLE BUILDING 001 浅沼組名古屋支店改修PJ」
作者:川島範久 國友拓郎(川島範久建築設計事務所) 石原誠一郎 長谷川清(浅沼組)
所在地:愛知県名古屋市中村区名駅南

応募作品一覧

応募番号:14



「リバーホールディングス両国」
作者:(株)竹中工務店 花岡郁哉 千賀順
所在地:東京都墨田区緑

応募番号:15



「新柏クリニック糖尿病みらい」
作者:(株)竹中工務店 齋藤華織 菅原努
所在地:千葉県柏市新柏

応募番号:16



「NOBORITO GATE BUILDING」
作者:山田修爾
所在地:神奈川県川崎市多摩区登戸

応募作品一覧

応募番号:24



「カダテルラス金田一プロジェクト」
作者:(有)upsetters 一級建築士事務所 /
岡部修三 上川聡 益留亜弥
所在地:岩手県二戸市金田一

応募番号:26



「石垣市役所」
作者:隈研吾 (株)隈研吾建築都市設計事務所
洲鎌祐治 洲鎌設計室(株)
所在地:沖縄県石垣市字真栄里

応募番号:27



「全業工業株式会社研究開発センター」
作者:頭井秀和 水野悠一郎 チンジャンリン
河野信
所在地:東京都八王子市南大沢

応募番号:17



「高萩市認定こども園」
作者:鈴木教久 鈴木彬史
所在地:茨城県高萩市本町

応募番号:18



「茶室ニゴウ」
作者:田中亮平/G ARCHITECTS STUDIO
所在地:東京都台東区浅草

応募番号:20



「日東化成株式会社社員食堂
“Jungle Nitto”」
作者:林正剛 福田和将 今井典子
所在地:大阪府大阪市東淀川区西淡路

応募番号:29



「行田協立診療所・ケアセンターさきたま」
作者:原浩人 吉岡寛之
所在地:埼玉県行田市本丸

応募番号:30



「ホテルオークラ京都岡崎別院」
作者:(株)三菱地所設計 代表取締役社長
林総一郎
所在地:京都府京都市左京区岡崎天王町

応募番号:32



「近畿大学E館(KDIX)」
作者:畠山文聡 澤井春美 田中了太
谷沢弘容
所在地:大阪府東大阪市新上小阪

応募番号:21



「Pergola」
作者:葛島隆之
所在地:静岡県浜松市天竜区佐久間町浦川

応募番号:22



「ニセコ蒸溜所」
作者:鹿島建設(株) 星野時彦 石黒翔梧
所在地:北海道虻田郡ニセコ町ニセコ

応募番号:23



「市原ゴルフクラブ市原コースクラブハウス」
作者:伊藤泰 堀池隆弥 大可亜矢 北村圭亮
米倉良輔 浅岡泰彦 村田翔太郎 岩井洋
永野真利子
所在地:千葉県市原市奉免

応募番号:33



「平塚文化芸術ホール・見附台公園・
見附台緑地・江戸見附緑地」
作者:清水建設・安井建築設計共同企業体
精木賢一 若杉晋吾 潮上大輔 内矢雅清
尾重綾乃 古賀愛乃 釜谷潤
所在地:神奈川県平塚市見附町、錦町

応募番号:34



「京都東山計画
(山荘 京大和・パークハイアット京都)」
作者:竹中工務店設計部 原田哲夫 松田知也
白波瀬智幸 仲晴男(元社員)
所在地:京都府京都市東山区高台寺掛屋町

応募番号:35



「武庫川女子大学カヌー部部室棟」
作者:竹中工務店設計部 松本伸洋 堀良平
高山直之 天野直紀
所在地:兵庫県西宮市東鳴尾町

応募作品一覧

応募番号:36



「SINKO AIR DESIGN STUDIO」
作者:森田昌宏 阿部敬一
所在地:大阪府寝屋川市宇谷町

応募番号:37



「竹中工務店静岡営業所」
作者:上河内浩 小杉嘉文 西田順風
所在地:静岡県静岡市葵区昭和町

応募番号:38



「金沢実践倫理会館」
作者:上河内浩 小杉嘉文
所在地:石川県金沢市玉川町

応募作品一覧

応募番号:45



「下石の通い所」
作者:加賀隆徳(ほとり建築事務所) 魚谷剛紀
(Uo.A) 鈴木将也(ほとり建築事務所)
所在地:岐阜県土岐市下石町

応募番号:49



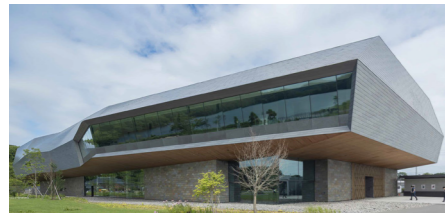
「石川県立図書館」
作者:環境デザイン研究所 仙田満
廣村デザイン事務所 廣村正彰
川上デザインルーム 川上元美
環境デザイン研究所 野村朋広
ライティングプランナーズアソシエイツ 面出薫
マインドスケープ 柳原博史
所在地:石川県金沢市小立野

応募番号:51



「木曽町役場」
作者:千田友己 千田藍 金箱温春 岡山俊介
所在地:長野県木曽郡木曽町福島

応募番号:39



「国立アイヌ民族博物館」
作者:安藤直 海老原靖子 松谷悟詞 國眼一成
所在地:北海道白老郡白老町若草町

応募番号:40



「オセロハウス」
作者:中西正佳(株)中西正佳建築設計事務所
所在地:大阪府高槻市真上町

応募番号:41



「竹中工務店岡山営業所」
作者:高橋賢
所在地:岡山県岡山市北区田町

応募番号:52



「大宮区役所・大宮図書館」
作者:(株)久米設計 伊藤彰彦
シーラクス K&H(株)工藤和美
大成建設(株)一級建築士事務所 伊勢季彦
村瀬宏典
所在地:埼玉県さいたま市大宮区吉敷町

応募番号:54



「宝性院観音堂」
作者:柿木佑介 廣岡周平
所在地:埼玉県北葛飾郡杉戸町杉戸

応募番号:55



「上有住地区公民館」
作者:柿木佑介 廣岡周平
所在地:岩手県気仙郡住田町上有住山脈地

応募番号:42



「Nagasaki Job Port」
作者:稲垣淳哉 佐野哲史 永井拓生 堀英祐/
Eureka
石井秀幸 野田亜木子/studio terra
小林玲子/kitokino architecture
所在地:長崎県長崎市田中町

応募番号:43



「京都美術工芸大学東館」
作者:人見将敏 小梶吉隆(京都美術工芸大学)
川北英 杏義啓(京都建築大学校)
林伸昭 山本恭代 数澤魁斗(戸田建設(株))
所在地:京都市東山区鞘町通正面下る上堀詰町

応募番号:44



「東立石保育園」
作者:相坂研介設計アトリエ 相坂研介
所在地:東京都葛飾区東立石

応募番号:56



「Farewell Platform」
作者:百枝優
所在地:長崎県佐世保市新田町

応募番号:57



「HOGET」
作者:佐々木翔 佐々木千鶴
所在地:長崎県西海市西海町川内郷

応募番号:58



「西部石油(株)山口製油所新事務所棟」
作者:AA建築設計工房 川北英
大成建設(株)一級建築士事務所 横手真一郎
関明子 遠藤僚 岩崎利幸 尾毛谷阿弓
(株)コンパッソ 菊竹雪
所在地:山口県山陽小野田市西沖

AACA賞2023/第32回
2023年10月0日発行
発行：一般社団法人日本建築美術工芸協会
〒108-0014
東京都港区芝5-26-20 建築会館6F
表彰委員会
委員長：可児才助
副委員長：石原智也
委員：岩井光男

広告

表3：広告